

志布志麓



歴史



志布志麓の魅力を全6回（隔月）にわたりお伝えします。

国道220号線から県道3号線をカギ型に曲がってたどり着く、地頭仮屋跡を中心に広がる蔵之馬場、沢目記馬場、犬之馬場、小淵馬場、西谷馬場などが志布志麓です。

志布志麓ってなんだろう？

志布志麓に住んで十余年になりました。引越してきたころ麓集落で枝垂れ梅の植樹がありました。今では幹が太くなり花芽も付き始めました。また、蔵之馬場から前川沿いの散歩道には、点々と柳が風になびき、一帯を歴史の町らしく演出しています。

この辺りの屋敷は石垣などで囲われ、志布志小学校（地頭仮屋跡）の校庭は、市街地でありながら大きな楠、銀杏、榎があり、隣の神社や民家にも歴史を感じ

じさせる大木が聳えています。

ここ数年で観光案内板が整備され、志布志小学校の隣や宝満寺跡にトイレと休憩所が設置されました。見学するには随分と便利になりましたが、奥行きのある麓地区の歴史と素顔を理解するには多少の予備知識が必要だと思います。というのも私が麓地区に引越してきた、まず疑問に思ったのが「なぜこのお

家の辺りを麓と言っの？」ということでした。麓は、普通は高い山の裾などを指すのですが、志布志麓は志布志城と湧水のある谷間や前川沿いあります。藩境の



西谷馬場



志布志城（内城）



沢目記馬場



志布志小学校（地頭仮屋跡）



志布志津（港）は大阪など上方や琉球との交易も盛んで薩摩藩内でも重要な位置づけがありました。理解するには暫くかかったのが正直なところです。

かつて薩摩藩は領内を百を超える地区に分け、軍事、地方行政の中心として地頭仮屋を置きました。これは外城制度といわれるもので、地頭仮屋を囲むように郷士と呼ばれる武士たちの居住地があり、ここが「麓」と呼ばれているのです。

写真・文：東郷恵子（志布志麓住人、落語大好き）

■問い合わせ先：教育委員会 生涯学習課 文化財管理室 指定文化財係 Tel：472-1111（内線343）